

## II. 教育研究組織

## 1. 現状の説明

## (1) 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。

本学の教育研究上の基本組織は、医学部医学科、看護学部看護学科及び大学院医学研究科であり、附属施設として、総合医学研究所、図書館、大学病院が設置されている。また、教育研究組織として、医学教育センター、学生部（学生支援センターを包括）、研究推進センターを配置している。さらに、事務局、入学センター、国際交流センター、出版局を設置して、これらの組織が有機的な連携のもとで教育・研究活動を支えている。（資料 2-1）

本学の基本的な組織体制は、大学の理念・目的に掲げる「人間性豊かな良医の育成」、「医学・看護学に関する理論と応用とを教授研究し、医の倫理に徹して日進月歩の医学の進展に対応し得る有能な医師並びに保健医療及び福祉に貢献できる看護職者を育成する」の実現を図るため編成され、医学・医療を総合的に教育研究しつつ、学生の人格陶冶を行なうための組織として適切に運営されている。

学部教育については学部長の下に医学部には「医学部教務部」、「医学部教務委員会」、看護学部には「看護学部教務委員会」が設置されており、これらが中心となって学部教育全般を管理統括している。また、大学院については「研究科運営委員会」が設置されており、同様に大学院教育全般を統括している。（資料 2-2、2-3、2-4、2-5）

大学全体の教学に関する事項については、学長を議長とし、各学部長、研究科長、学生部長、図書館長等の役職教員で構成する大学運営会議が組織され、教育研究等の方針について学内での意思統一が図られている。（資料 2-6）

総合医学研究所は、医学・医療の急速な進歩、疾病構造の変化に対応した総合的な医学研究を行い、研究成果の臨床応用を目的として 1989（平成 1）年 4 月に開設された。時代に合わせた組織の再編を行いつつ、創造的かつ独自の研究の遂行および全学的な研究活動の啓発、活性化をめざした教育支援体制の充実を図っている。（資料 2-7）

図書館は 1972（昭和 47）年に開架式閲覧を採用し、医学専門図書館として開館した。1995（平成 7）年には学術情報ネットワーク NACSIS に接続して、国内主要大学図書館ともコンピュータを介して連携できるようになり、また、2005（平成 17）年から LIMEDIO という図書館システムが導入され、学術情報のより効率的な収集と提供が可能となった。

金沢医科大学病院は、1974（昭和 49）年 4 月 1 日に開設承認され、同年 9 月 1 日に開院した。臨床医学教育の面においては、クリニカル・クラークシップに基づく医学部卒前臨床教育の場を提供するとともに、医学部卒前教育との連携・継続性を重視した初期臨床研修から後期臨床研修を実施している。臨床研究においても新しい病態解析、診断法や治療法の開発、新薬の治験など大きな役割を担っている。（資料 2-8）

医学教育センターは学長の直轄組織として 2005（平成 17）年 4 月に開設され、授業の改善、教育効果の検証、教材開発、臨床スキルの訓練、成績評価の標準化、教員の FD を担当している。2009（平成 21）年にはクリニカル・シミュレーション・センターが

医学教育センターに設置され、医学生・看護学生の医療技能訓練をはじめ、全医療職の医療スキル向上に必要なトレーニングを支援している。(資料 2-9、2-10)

学生生活等の支援組織としての学生部については、「VI. 学生支援」で詳細に記述した。

研究面での支援体制を強化するため、2008（平成 20）年 4 月に研究推進センターが設置され、研究事業の各種基盤整備、研究者への適正な支援活動を行う一方、産学連携コーディネータやリサーチアドミニストレータの活動により、学内における産学官連携意識の高揚に取り組むなど、地域や産業界との連携を促進している。(資料 2-11)

国際交流センターは、本学の国際交流事業を統括する国際交流センター運営会議の決定事項を実施するとともに、独自の事業を展開し、本学の教育・研究・診療の発展と向上に寄与することを目的に、2008（平成 20）年 4 月に開設され、大学国際化のため、1) 学生及び研究者の受け入れ、派遣、国際交流活動の支援、2) 外国人留学生および研究者に対する修学上および生活上の支援、3) 国際交流に関する各種事業の企画立案・実施及び情報収集と提供等の業務を行っている。(資料 2-12)

以上のとおり、本学の学部、研究科およびセンター等の教育研究組織は、常に建学の精神と教育理念・目的を意識した構成になっている。

### (2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

本学の基本的な組織体制は、大学の理念、学部の教育理念・教育目標の実現を図るために編成されている。

各学部、研究科では教授会等で検証を行っており、必要に応じ教授会、大学運営会議で検討を行い、組織の追加等の見直しも行っている。

また、時代の要請に基づく人材を育成するため、看護系大学院の設置の必要性を認め、設置準備室を開設する等、検証とともに教育研究組織の変更にも取り組んでいる。

## 2. 点検・評価

### ① 効果が上がっている事項

- 1) 医学教育センターにクリニカル・シミュレーション・センターが設置されたことにより、医学生、看護学生の臨床実習に係る医療技術訓練等による臨床スキルアップのみならず、初期および後期臨床研修を含む医師並びに看護師の技術向上にも効果を上げている。特に医学部においては、2010（平成 22）年度の医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂に示された、「基本的診療能力の確実な習得」の教育にあたり、数多くのシミュレータを備えたセンターにおける実習が教育効果を上げている。
- 2) 研究推進センターの設置により、科学研究費等の外部資金の獲得件数、金額が増加している。
- 3) 国際交流センター専任スタッフの配置により、諸外国の提携校との学術交流も充実したほか、学部学生レベルの留学制度も実現し、本学のカリキュラムの特徴の一つとなっている。
- 4) 大学院の担当教員数は大学院設置基準を十分満たしており、研究活動を円滑にするための配慮も行われている。

## ② 改善すべき事項

- 1) 医学部と看護学部の授業時間が統一されていないため（医学部 50 分、看護学部 90 分）一般教育機構の教員が両学部において基礎教育科目の授業を担当する際の障害となっている。
- 2) 教育組織の妥当性の検証を行っているが、自発的にその組織の実績等を報告並びに検証する仕組みは未だ十分とはいえない。
- 3) 大学院の担当教員数は大学院設置基準を十分満たしており、研究活動を円滑にするための配慮も行われている。しかし、一部の専門科目において担当教員数に偏りがみられ、同様に、学生のほとんどが臨床医学系に在籍（資料 2-13）しているため、臨床医学系教員の負担が大きくなってきており、改善が必要である。

## 3. 将来に向けた発展方策

### ① 効果が上がっている事項

科学研究費等の外部資金の獲得件数、金額が増加しているが、引き続き外部資金の積極的な獲得を行う。（資料 2-7 P43）

医学教育センターは、カリキュラムの改善、臨床スキルの訓練、教員の FD などの面で効果を上げているが、教育効果の検証や教材開発および成績評価の標準化などをさらに進めていく。

大学院では、一部の専門科目において担当教員数に偏りがみられ、また、学生の多くが臨床医学系に在籍（資料 2-13）しており、教員配置の検証と臨床医学系教員の負担軽減のため基礎医学系教員との連携を推進する。

### ② 改善すべき事項

- 1) 同一大学内での異なる授業時間（医学部 50 分、看護学部 90 分）には違和感があるとの意見はあったが、具体的にこれを調整する動きまでには至っていないことから、大学運営会議において学長諮問の検討委員会を立ち上げ対応の具体案を検討する。
- 2) 大学院の活性化は大学全体の研究活動の活性化に繋がる。在籍する学生が臨床医学系に偏り基礎医学系は僅かである現状では、臨床医学系教員に係る負担は大きい。そのため、臨床医学系と基礎医学系の連携による共同研究を強力に推進することにより、基礎医学系の活性化と専攻学生の増員を図り、それらの学生が学位取得後、基礎医学において研究継続することにより大学全体の研究活動は活性化する。ポストドクターの採用（資料 2-14）など積極的かつ計画的に実施する。

## 4. 根拠資料

資料 2-1 金沢医科大学組織図

資料 2-2 金沢医科大学医学部教務部組織運営規程（既出 資料 1-33）

資料 2-3 金沢医科大学医学部教務委員会規程（既出 資料 1-34）

資料 2-4 金沢医科大学看護学部教務委員会規程

資料 2-5 大学院医学研究科運営委員会運営内規（既出 資料 1-42）

資料 2-6 金沢医科大学運営会議規程

## Ⅱ. 教育研究組織

- 資料 2-7 研究所概要  
(金沢医科大学総合医学研究所年報 第 24 巻 2013 から抜粋)
- 資料 2-8 金沢医科大学病院 病院案内
- 資料 2-9 金沢医科大学概要 2012/2013 (既出 資料 1-1)
- 資料 2-10 金沢医科大学クリニカル・シミュレーション・センター運営規程
- 資料 2-11 金沢医科大学研究推進センターに関する規程
- 資料 2-12 金沢医科大学国際交流センターに関する規程
- 資料 2-13 平成 25 年度金沢医科大学大学院医学研究科担当教員数および学生数
- 資料 2-14 金沢医科大学特定職員規程